

氏名： 三輪 建二
 所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系
 職名： 教授
 学位： 1983.3.31 教育学修士 東京大学
 1993.3.17 博士（教育学） 東京大学
 専門分野： 生涯学習論、成人教育学、社会教育学、組織学習論、教師教育論、専門職大学院論
 E-mail： miwa.kenji@ocha.ac.jp
 URL： lw.cc.ocha.ac.jp/qube.li.ocha.ac.jp/hss/educi/miwa/

◆研究キーワード / Keywords

アンドラゴジー／生涯学習／省察的実践／専門職教育／組織学習
 andragogy / lifelong learning / reflective practice / professional education / organizational learning

◆主要業績

総数（5）件

- ・日本社会教育学会編『学びあうコミュニティを培う』（東洋館出版社、2009年）を副編集長として編集し、刊行した。執筆者は総勢60名。地域を「学びあうコミュニティ」にし、学校・家庭・地域の連携事業を促進していく社会教育関係職員、学習コーディネーターの役割について、事例を含めて論じている。3年間に及ぶ日本社会教育学会職員問題特別検討委員会の研究成果をまとめたものである。この書物をもとに2回、文科省生涯学習政策局社会教育課と意見交換会を行った。
- ・『おとなの学びを育む』（鳳書房、2009年）を、平成21年度の学術振興会科学研究費（公開促進費、130万円）の助成を受けて刊行した。ライフワークである成人学習論をめぐる理論の集大成を行うと同時に、自らが関わった成人教育実践（附属教員と共同の研修プログラム開発など）を省察した内容になっている。
- ・平成21年度の1年間をかけて、放送大学大学院科目「生涯学習の理論と実践」（全15回、平成22?25年度放送）のテレビ収録を行った。収録と並行して、大学院用印刷教材「生涯学習の理論と実践」を執筆し、平成22年3月に放送大学教育振興会より『生涯学習の理論と実践』と題して刊行した。
- ・全国社会教育職員養成研究連絡協議会（社養協）代表として「社会教育関係職員の養成・任採用・研修について」の報告書をまとめると同時に、英語訳を出版した。この英語訳は、平成21年12月にブラジルで開催された第8回成人教育国際会議（ベレン会議）に配布され、日本の成人教育職員体制について世界に知らしめることができた。
- ・全国社会教育職員養成研究連絡協議会（社養協）代表として、平成21年度後期に、社会教育主事課程をもつ全国の大学にアンケート調査を実施した。社会教育実習を中心にすえたあらたな養成カリキュラムの開発に向けて、データ分析を行った。この研究成果について、文科省生涯学習政策局社会教育課と意見交換を行った。

◆研究内容 / Research Pursuits

? 学習コーディネーターの専門能力論：地域において学びあうコミュニティを創造する学習コーディネーター論をまとめた。日本社会教育学会副会長として『学びあうコミュニティの創造』を刊行し、社会教育職員養成研究連絡協議会代表として、職員養成・任採用・研修の報告書を刊行、また主事課程をもつ大学への調査も実施した。調査について文科省生涯学習政策局と協議した。

? 『おとなの学びを育む』の刊行：成人学習論の研究成果と自らの成人教育実践の省察をふまえ『おとなの学びを育む』（鳳書房）を公開促進費により刊行した。

? 放送大学大学院科目「生涯学習の理論と実践」：全15回のテレビ収録と印刷教材執筆を行い、『生涯学習の理論と実践』（放送大学教育振興会）を刊行した。

? 成人女性の学習論・ライフプランニング論：生涯学習の参加者の7割を占める成人女性の学習論として、D・フラネリー他著『成人女性の学習』（2009）を監役者の立場で翻訳刊行し、文科省「女性のライフプランニング総合推進委員」としてパンフレット作成に参画した。

- 1) As sub-editor, I have published a book "Creating Learning Community"(2009), I also researched, analyzed and made reports about the theme "Educating, Staff Development of Social Education Staffs"(2009).
- 2) I have published a book, Kenji MIWA "Cultivation of Adult Learning" (Ohtori Publishing, 2009). It was a result of my 15 years studies about adult learning.
- 3) I took part in making the TV program and text book about University of the Air Japan, titled "Lifelong Learning- Theory and Practice".
- 4) About Women's adult learning, I and Ms. Naoko IRIE translated and published a book "Women as Adult Learnins"(Flannery, 2009). I also took part in publishing a pamphlet "Lifeplanning of Women students", as member of "Promoting Lifeplanning of Women" at the Ministry of Eduaction, (2009).

◆教育内容 / Educational Pursuits

理論構築だけではなく、以下にあるように社会教育・生涯学習のフィールドで実際に展開されている学習活動への参画、および参画についての省察（リフレクション）を通して、生涯学習論の理解を深める活動を行った。

?平成21年度学内科学研究費を活用し、学部生15名を引率し、ドイツの社会教育施設の視察を行った(11月8?14日)。視察結果は学生の編集による「ドイツ社会教育視察報告書」にまとめることができた。

?教育科学コースの教育実地研究を富士原紀絵准教授と担当し、学生25名を引率して、学科長を務める江戸川総合人生大学子ども支援学科の授業参観を実施した。

?社会教育演習(参加学生23名)において後期にフィールドワークを実施し、学生がゼミ論にまとめた(相撲部屋見学、中野区生涯学習サポーター養成講座、ドイツ社会教育視察、アトム共同保育園視察、森林伐採ボランティア活動)。

?社会教育学特殊講義において、学生は学生主体のプログラムの立案、実施、評価を体験した。

Through taking part in programs of lifelong learning, I tried promoting that students can understand lifelong learning by taking part in them and reflecting their activities, followingly:

1) 25 students could visit Germany and some adult education institutions, schools. They edited the report "Report about Adult Education Institutions in Germany".

2) Students could visit the course of caring and facilitating Children at the Edogawa Integrated College, in a special lecture "Fieldresearch of Education".

3) In the seminar on Social Education, students visited and took part in some social education activities (Sumo training, nursery etc.) and made reports.

4) In the special lecture "Social Education", students could experience planning, doing, checking and reflecting their own programs.

◆研究計画

?お茶の水女子大学ラウンドテーブルを2010年7月に実施し、現職者(学校教員、保育士、看護師、日本語ボランティアなど)を対象とした、実践の省察を中心とする研修・能力開発のプログラムを開発する。

?お茶の水女子大学ラウンドテーブルを位置付けながら、幼稚園から高等学校までの附属教員の現職研修プログラムの開発に取り組む予定である。

?APECのシンポジウム(9月)に報告者として参加し、成人女性の学習やライフプランニングをめぐる研究活動を深める。

?韓国との研究交流(釜山大学など)につとめ、平生教育士の養成・研修、省察論やバイオグラフィー研究について意見交換を行う。

◆メッセージ

生涯学習・社会教育について研究し、また実践にも関わっています。

生涯にわたるといふ縦軸の学びについて、また学校以外のさまざまな学習資源という横軸の学びについて考えています。

また、子どもの学びと比較してのおとなの学びの特徴は何か、おとなの場合には、経験を生かした、あるいは経験をふり返りながら学ぶことが特質になるのではないかという点についても実践しつつ研究を重ねています。

教育学の枠組みをより豊かにする視点を、実践に関わりながら学んでいくことは、自らの生き方を再確認することにもつながりますので、ぜひ授業に参加してみてください。